

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：13101

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K18628

研究課題名(和文)初年次専門(職)教育と生涯キャリアデザインとの接合点の構築に関する実践開発的研究

研究課題名(英文)The Practical Developmental Reserach on Junction between 1st-year-Specialized (Professional) Education and Lifelong Career Design

研究代表者

渡邊 洋子(WATANABE, Yoko)

新潟大学・人文社会科学系・教授

研究者番号：70222411

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文): 専門職養成を担う「キャリア直結型学部」(医歯看護学部等)、学術的関心により学修する「キャリア非直結型学部」(法・理学部等)の双方で、初年次教育と生涯キャリアデザインの効果的な統合を目指す教育開発実践研究である。では、医学部初年次における導入・転換教育として自己主導型学習の授業実践を開発研究した。では、新設の文理融合・非キャリア直結学部(創生学部)着任後に組織した領域横断型研究会(生涯教育学、公法学、経営学、社会科教育学、心理学、芸術学等)で、初年次教育の国内実地調査2回、学生主体キャリアイベント支援4回、『創生ジャーナルHuman and Society』1～4巻の刊行等の成果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、学部教育が大学生のキャリア形成や生涯キャリアデザインに及ぼし得る効果や影響と、それを踏まえた初年次等教育プログラムの開発・学習活動支援に注目する。初等・中等・高等教育に細分化される教育学研究では、大学生は教育の客体(「子ども」)であり、過渡期にある(成人)学習者の側面は度外視される。教室でのアクティブな学びが重視される中、その学習成果や「アクティブ性」が成人・生涯学習者としての生活や学び、生涯キャリアデザインにどう結びつき、どんな影響を及ぼすかも不明である。本研究は大学教育の基軸を成人・生涯学習/教育に転換させ、より成熟した職業人・社会人の育成を目指す点で、学術的・社会的意義がある。

研究成果の概要(英文): This study is for the development of educational practice aiming at effective integration of first-year education and lifelong career design, in both types of facilities:(1) Career-directed faculties(CDF,ex.Faculty of Medical, Dental and Nursing,etc.);(2) Career-non-directed faculties(CNF,ex.Faculty of Law, Science,etc.).For CDF,I designed and taught the teaching program of self-directed learning as an introductory and conversion education to the first year medical students. For CNF, as a member of the brand new faculty (Sosei Gakubu, Faculty of Creation) for the integration of arts and sciences and so non-career directed, I organized a in-faculty cross-disciplinary study group (lifelong education, public law, business administration, social studies education, psychology, art studies,etc.).Main outcome: field surveys of two unique first-year education, 4 student-centered career-events, and editing and publishing the 4 volumes of academic journal "Creation Journal of Human and Society".

研究分野：生涯教育学

キーワード：キャリア直結型学部 キャリア非直結型学部 初年次教育 生涯キャリアデザイン 自己主導型学習 成人(生涯)学習/教育 学生主体キャリアイベント 学習支援

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

### 1) 構想

現代の大学教育では、急速な社会変化や多様な社会課題に即応できる職業人・社会人への成長に向け、学生自らが生涯にわたるキャリアを構想し、キャリアデザインを構築できるようにするための仕組みや機会、契機となる活動を、正規カリキュラムの内外に、あらゆる形で設けていくことが求められている。このような取り組みは、就職活動や卒業後の将来設計を支援する独立組織（キャリアセンターなど）とは別に、あらゆる学部が主体となって、その教育目的や教育内容、教育体制などに応じたキャリアデザイン教育を提供し、所属学生の生涯にわたるキャリアデザインの構築を支援するものとして、今後ますます重要なものになると考えられる。本研究は、大学生の生涯キャリアデザインの支援に向けた様々な取り組みを、キャリア直結学部とキャリア非直結学部の双方の足場で、特に初年次教育に注目しながら、実践的に開発しようとしたものである。

研究代表者の渡邊は、生涯教育学を専門としており、欧米の成人学習／教育理論の日本への適用など、「子どもの教育」や「学校教育」の枠組にとらわれない生涯的視野に立った「学習／教育」のあり方を研究してきた。(単著『生涯学習時代の成人教育学—学習者支援へのアドヴォカシー』(2002)、監訳書『学習者と教育者のための自己主導型学習ガイド』(2005)、『生涯学習支援の理論と実践—「教えること」の現在』(2011)、『成人教育・生涯学習ハンドブック—理論と実践』(2020))。

2006年に日本医学教育学会研究大会の教育講演「成人教育学の基本原則—職業人教育への示唆と提起」(『医学教育』第38巻第3号所収)を契機に、同学会で「非医療系教育専門家」(non-medical/clinical educationalist)として、学会認定医学教育専門家制度の設計に関わる専門委員やWGメンバーなどを務め、医学教育、薬学教育、看護学教育などの授業実践やFDなどに関わってきた。特に、「自己主導型学習」の授業実践は、医学教育の初年次教育と医師のキャリアデザインを結びつける契機と捉えられた。他方、代表者は2012年に単著『近代日本の女性専門職教育—東京女子医科大学創立者吉岡彌生の生涯教育学的研究』をまとめ、吉岡の働き方＝生き方がロールモデルとして、女性医師の生涯キャリアの展望に現代的意義と示唆をもつことを見出した。さらに他の科研(「女性医療専門職における生涯継続教育の方法論開発—キャリアヒストリー法の構築と活用」(基盤B、代表者)や「わが国の医学部における入学者選抜の妥当性と改善策に関する総合的国際共同研究」(基盤B、分担者)など)の研究を通し、医学部など「キャリア直結型学部」の導入・転換教育とキャリアデザイン教育を架橋する初年次教育の重要性に気づいた。同時に、学部教育がキャリアと直結しない「キャリア非直結学部」では、導入・転換教育とキャリアデザイン教育はどうなるのかとの問いを抱いた。以上により構想されたのが、本研究である。

### 2) 採択後(創生学部着任後)の具体的展開

研究代表者は、本科研申請後の2017年4月、文理融合を旨とする新設の新潟大学創生学部へ異動・着任した。同学部は自らが設定した学修目標に向け、文理の科目パッケージ群から専門科目を選択して学ぶという、まさに「非キャリア直結学部」である。

申請時とは研究環境や研究状況が激変し、研究上の困難も懸念されたが、次の理由により、申請時の研究計画を超える研究の展開ができた。①創生学部で異なる専門領域を足場とする複数教員の参加を得て、本研究の趣旨を踏まえた研究会を組織できたこと、ゆえに多領域における良質の情報収集や状況把握、およびそれらを踏まえた横断型議論が可能になったこと、②同研究会が、創生学部をキャリア非直結型学部の典型と捉え、実践研究のフィールドとして取り組んだ学生主体型キャリアイベントが実施でき、キャリア非直結型学部における初年次キャリア教育への示唆や手がかりが少なからず得られたこと、③奈良県立医科大学との良好な協力関係が維持され、授業「自己主導型学習」の継続のみならず、より発展的な実践研究としての展開の可能性が検討できる段階になったこと、などである。

代表者は同年11月、本研究の構想を土台に、同学部の教員有志とともに「キャリア創生研究会」を組織化した。同研究会は、複数領域の有志教員(生涯教育学・公法学・メディア学・社会科教育学・経営学・心理学・芸術学)で構成されるがゆえに、創生学部のような「非キャリア直結学部」の教育を足場に、他大学・学部の「キャリア直結学部」「キャリア非直結学部」の教育について、領域横断的に比較検討しながら実践研究を行うことが可能になった。同研究会では、特徴的な初年次教育を行う大学等へのフィールド調査、学生主体キャリアイベント支援のアクションリサーチ、独自の発信媒体『創生ジャーナル Human and Society』の発刊(2020年度までに第1~4巻を発行)などを行ってきている。

このように、本研究は、研究代表者個人の研究的取り組みと並行して、申請後の勤務地での「キャリア創生研究会」での共同的取り組みの中で、取り組まれてきたものである。

## 2. 研究の目的

本研究は、四年制大学の①特定の専門職養成に直結したキャリア直結型学部（医歯学部・看護学部等）、および②進路を特定せずに関心分野で受け入れるキャリア非直結型学部（法学部・理学部等）の双方で、初年次の専門教育（ないし初修専門教育）と生涯を通じたキャリアデザインへの教育を効果的に接合する方法論の模索に実践的に取り組み、そこに即応したプログラム開発を試みるものであった。そこでは、初年次の専門（職）教育と学生自身の生涯キャリアデザインに向けた展望の接合点を探り、そこへの広い意味での教育的対応のあり方を、授業その他の実践的な取り組みを通して研究開発することを目指した。

## 3. 研究の方法

本研究は、純粋な個人研究（以下、(1) (2) (7) (8)）と、研究会を足場とする共同的研究の取り組み（以下、(3) (4) (5) (6) (9)）、の二つの方向において、次のような具体的方法により取り組まれてきた。

### (1) 全国の「キャリア直結学部」「キャリア非直結学部」の教育動向調査

平成 29 年度に、キャリア直結型学部の典型例として医学部に注目し、初年次専門（職）教育の実際に関するインターネット・文献での実態調査を実施した。その中で、「キャリア直結学部」としては、昭和大学（1 年次に全寮制で多職種連携教育を実施する医療系総合大学）、「キャリア非直結大学」としては、金沢工業大学（1 年次から学生の主体的学びを育てる教育体制により、キャリアを視野に入れた専門教育を実施する単科大学）に注目した。

### (2) 医学部における初年次授業「自己主導型学習」の実践研究の継続と論文化

2012 年度以降、奈良県立医科大学教育開発センター藤本眞一教授のご協力により実施してきた授業「自己主導型学習」を継続した（～2019 年度）。また実践研究の成果を 2017 年 7 月の日本医学教育学会でポスター発表し、さらに『奈良医学雑誌』に原著論文として掲載した。医学部の初年次教育の一環として開発した授業「自己主導型学習」は、「学習契約」を媒介に、「なりたい医師像とそのため求められる学び」を自ら設定し、6 年間の学修の到達目標と方法論、学習成果の根拠資料などをシートに可視化することを通し、学習者が、自らの学びの見通しをもつことを支援する授業実践である。同実践は、教師主導型学習から自己主導型学習への導入・転換教育と、医師という将来の職業へのキャリアデザインとを架橋するものと位置づけられる。

### (3) 多領域横断型の「キャリア創生研究会」の組織化と定例研究会

2017 年 4 月に異動・着任した新設の新潟大学創生学部において、研究代表者による本科研の構想を基盤に、複数学問領域の有志教員とともに、学生のキャリア教育とキャリアデザインに関わる研究会を結成した。主な活動は、①定例研究会の開催（結成以来、月一回開催）、②各専門領域における専門教育とキャリア支援の実態把握および課題共有化、③学生主体キャリアイベントの実施支援、④特色ある初年次教育を行う大学のフィールド調査、⑤その他の教育実践活動、⑥発信媒体『創生ジャーナル Human and Society』の編集・執筆・発刊・送付作業、などである。

### (4) 学生主体キャリアイベント支援のアクションリサーチ

「キャリア創生研究会」の共同実践研究に向けた共通基盤構築の取り組みとして、有志学生を募り、学生主体キャリアイベントの企画・実施を支援するアクションリサーチを行っている。当日の記録の文字起こしと研究会メンバーによる多面的な振り返りを、研究会ジャーナル『創生ジャーナル Human and Society』の企画特集（第 1 巻）および「実践報告」（第 2～4 巻）として取りまとめた。テーマと実施日程は、第 1 回「女性と男性がともに人間らしく働くために」（2018 年 2 月 10 日）、第 2 回「海を渡って～自分自身を変えるきっかけ」（2018 年 7 月 2 日）、第 3 回「公務員のリアルを聴こう」（2019 年 1 月 16 日）、第 4 回「Career & Talk キャリトーク～公務員編～」(2020 年 2 月 19 日) である。これらについては、参加・主催学生の意識の変化を見るアンケートなどを行い、記録と振り返りを、学生たちと連名でジャーナル原稿に掲載している。

### (5) 特色ある初年次教育を実施する大学のフィールド調査

インターネット調査により選定した 2 つの大学について、研究会メンバー 6 人全員で実地訪問し、関係者にヒアリング・インタビュー調査を行った。①2018 年 9 月 13 日に昭和大学富士吉田キャンパスを訪ね、倉田知光教授や職員の方々から教育方針・教育活動の実際についてご説明を

受けた後、キャンパス内と授業・実習などの指導状況や学生の様子を見学した。同キャンパスでは、医・歯・薬・看護・理学療法の1年生全員が、多領域混合の課題基盤型教育（PBL）と全寮制生活を経験するIPE（多職種連携教育）の実態について、視察と聴き取りを行い、報告と振り返りを執筆した。②2019年9月9日に金沢工業大学を訪ね、同情報フロンティア学部出原立子教授および同事務局新井真二氏から、文理融合型教育と学生支援の実際についてご説明を受けた後、キャンパス内の各施設をまわり、「自ら考え行動する技術者」の養成に向けた文理融合の取り組みの実際を視察した。

#### （6）発信媒体『創生ジャーナル Human and Society』の編集・執筆・発刊・送付

「キャリア創生研究会」の研究成果の発信媒体として、標記ジャーナルを構想し、第1巻から第4巻までの計4冊を刊行した。研究代表者は、同ジャーナルの編集委員として、各号の「特集」の企画、目次構成案の作成と検討、原稿執筆、キャリアイベント等の文字起こしと原稿化、などを担った。「特集」は第1巻（2018年3月）「初年次教育とキャリア意識—学生主体キャリアイベントの実践から」、第2巻（2019年3月）「〈接続・交流・連携〉を目指す初年次教育の意義と課題」、第3巻「大学教育における「文/理」を超えて一境界の意義を問う—」、第4巻「オンライン時代の働き方・学び方・ライフ/キャリアデザインに向けて」である。本ジャーナルは、印刷された雑誌（ISSN：2434-284X）としてのみならず、新潟大学附属図書館レポジトリに掲載されたオンラインジャーナル（ISSN:2424-2831）としても機能している。

[https://niigatau.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=100&sort=custom\\_sort&search\\_type=2&q=1748&timestam=1624394813.889893](https://niigatau.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=100&sort=custom_sort&search_type=2&q=1748&timestam=1624394813.889893) 本ジャーナル全巻は国立国会図書館（東京館・関西館）に納入し、第1・2巻は全国国立大学附属図書館および県内大学・関係機関に寄贈している。

#### （7）授業実践の記録化と報告とりまとめ

キャリア直結学部の授業「自己主導型学習」とは別に、キャリア非直結学部の初年次教育やキャリアデザイン教育への示唆を得るため、学生主体キャリアイベントのほか、学生主体の国際交流活動（「2019年度 新潟大学創生学部 学生国際交流の取り組み—授業「地域・国際交流B」の到達点と課題—」）、グループワーク基盤型集中講義のオンライン化による実施の検証（「グループワーク基盤型オンライン授業の意義と可能性—2020年授業「生涯学習概論」受講学生の声から—」）、などに関わる授業の実践報告を記録化・言語化しつつ、その活動の教育的意義や課題についての報告を取りまとめた。

#### （8）海外調査（中国・北京師範大学珠海校教育学部、カナダ・マクマスター大学医学部）

キャリア直結学部の初年次教育の実際について海外事情を知るべく、標記の2つの大学において実地調査を行った。その結果の一端を、「医学部入試と医学教育、生涯キャリアをつなぐ初年次教育—カナダ・マクマスター大学の事例から—」としてまとめ、『創生ジャーナル Human and Society』第3巻に掲載している。

#### （9）自然科学系教員との「文理融合」をめぐる座談会の実施

2020年1月、現代大学教育における「文理融合」をめぐる、情報共有と意見交換を行うための座談会を、創生学部自然科学系教員を研究会に迎えて実施した。その記録を『創生ジャーナル Human and Society』第3巻に掲載した。

### 4. 研究成果 （①研究代表者が執筆に携わったもの）

- ①渡邊洋子・田中一裕・中村隆志「教員による振り返り（初年次教育とキャリア意識—学生主体キャリアイベントの実践から）『創生ジャーナル Human and Society』第1巻、新潟大学キャリア創生研究会、2018.3、28-37頁、査読有。
- ②渡邊洋子「初年次教育におけるキャリアの位置づけと教育的対応をめぐる」『創生ジャーナル Human and Society』第1巻、新潟大学キャリア創生研究会、2018.3、38-40頁、査読有。
- ③渡邊洋子「キャリアヒストリー法の構築に向けて—女性医師を対象として」『創生ジャーナル Human and Society』第1巻、新潟大学キャリア創生研究会、2018.3、65-74頁、査読有。
- ④渡邊洋子・柴原真知子・大滝純司「鼎談：医学部入試と初年次教育を考える—生涯教育学・医学教育学・医学生支援の見地から」『創生ジャーナル Human and Society』第1巻、新潟大学キャリア創生研究会、2018.3、85-96頁、査読有。
- ⑤渡邊洋子「初年次教育における「異質」「多様性」要素の教育的意義—「高大」「異文化/他分野」「多職種/異業種」—」『創生ジャーナル Human and Society』第2巻、新潟大学キャリア創生研究会、2019.3、4-15頁、査読有。
- ⑥渡邊洋子「昭和大学富士吉田キャンパスを見学して—3つの観点から」『創生ジャーナル Human and Society』第2巻、新潟大学キャリア創生研究会、2019.3、30-32頁、査読有。

- ⑦渡邊洋子・清水千恵・山城裕太郎「第2回学生主体キャリアイベント実施報告―「海を渡って～自分自身を変えるきっかけ」『創生ジャーナル Human and Society』第2巻、新潟大学キャリア創生研究会、2019.3、63-85頁、査読有。
- ⑧渡邊洋子「医学部入試と医学教育の関連を考える―カナダ・マクマスター大学入学者の属性から―」『創生ジャーナル Human and Society』第2巻、新潟大学キャリア創生研究会、2019.3、123-130頁、査読有。
- ⑨種村文孝・犬塚典子・池田雅則・池田法子・渡邊洋子「ライフラインチャート活用の到達点と課題―女性医療専門職のキャリア研究方法として―」『創生ジャーナル Human and Society』第2巻、新潟大学キャリア創生研究会、2019.3、131-139頁、査読有。
- ⑩渡邊洋子「キャリア直結学部と非直結学部の『文理融合』への視座」『創生ジャーナル Human and Society』第3巻、新潟大学キャリア創生研究会、2020.3、4-12頁、査読有。
- ⑪渡邊洋子「2019年度 新潟大学創生学部 学生国際交流の取り組み―授業「地域・国際交流B」の到達点と課題―」『創生ジャーナル Human and Society』第3巻、新潟大学キャリア創生研究会、2020.3、33-55頁、査読有。
- ⑫渡邊洋子「医学部入試と医学教育、生涯キャリアをつなぐ初年次教育―カナダ・マクマスター大学の事例から―」『創生ジャーナル Human and Society』第3巻、新潟大学キャリア創生研究会、2020.3、85-105頁、査読有。
- ⑬渡邊洋子「グループワーク基盤型オンライン授業の意義と可能性―2020年授業『生涯学習概論』受講学生の声から―」『創生ジャーナル Human and Society』第4巻、新潟大学キャリア創生研究会、2021.3、16-34頁、査読有。
- ⑭渡邊洋子・山本芽衣・湯澤陸・布施英梨花・島中海斗・堀籠崇「第4回学生主体キャリアイベント実践報告『Career & Talk キャリートーク～公務員編～』」『創生ジャーナル Human and Society』第4巻、新潟大学キャリア創生研究会、2021.3、44-61頁、査読有。

#### 4. 研究成果 ② 研究協力者を含む、発信媒体の全体構図

研究協力者：中村隆志、藤巻一男、田中一裕、堀籠崇、並川努、榎本千賀子



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 25件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 25件）

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 3
2. 論文標題 キャリア直結学部と非直結学部の『文理融合』への視座	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 4 13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 3
2. 論文標題 医学部入試と医学教育、生涯キャリアをつなぐ初年次教育－カナダ・マクマスター大学の事例から－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 93 121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 3
2. 論文標題 2019年度新潟大学創生学部学生国際交流の取り組み 授業「地域/国際交流B」の到達点と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 35 61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中村隆志	4. 巻 3
2. 論文標題 文理融合型学部のポジション	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 14 18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 並川努	4. 巻 3
2. 論文標題 文理融合学部の入試についての予備的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 19 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中一裕	4. 巻 3
2. 論文標題 大学生が取り組む「高校生のキャリア形成授業」実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 30 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀籠崇	4. 巻 3
2. 論文標題 金沢工業大学の領域融合教育に関する調査報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 62 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤巻一男	4. 巻 3
2. 論文標題 「超スマート社会」(Society5.0)とその啓発授業の実践例 金沢工業大学の取り組み等を参考として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 72 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀籠崇・熊野英和・田中一裕	4. 巻 3
2. 論文標題 高校生向け課題探求授業実践に関する報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 25-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 熊野英和・中野優・藤巻一男・中村隆志・渡邊洋子・堀籠崇・並川努・田中一	4. 巻 3
2. 論文標題 座談会 文理融合教育の未来を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 82 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 2
2. 論文標題 初年次教育における「異質」「多様性」要素の教育的意義 「高大」「異文化/他分野」「多職種/異業種」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 4 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 2
2. 論文標題 昭和大学富士吉田キャンパスを見学して 3つの観点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 18 - 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子, 清水千恵, 山城裕太郎	4. 巻 2
2. 論文標題 第2回学生主体キャリアイベント実施報告 「海を渡って~自分自身を変えるきっかけ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 57 - 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 2
2. 論文標題 カナダにおける医学部入試と医学教育 マクマスター大学の入学者データから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 108 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 1
2. 論文標題 大学一年生が学習機会を企画・運営する意味とは キャリア非直結型学部の初年次教育への示唆 【教員による振り返り】	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 28頁 32頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 1
2. 論文標題 初年次教育におけるキャリアの位置づけと教育的対応をめぐる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 38頁 40頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤巻一男	4. 巻 4
2. 論文標題 リモートワークに係る働き方の選択と問題点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 4 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 4
2. 論文標題 グループワーク基盤型オンライン授業の意義と可能性ー2020年授業「生涯学習概論」受講学生の声からー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 16 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中一裕	4. 巻 4
2. 論文標題 オンライン講義に対する学習者の認識調査ーZoom型とYou Tube型の比較分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 35 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子・山本芽衣・湯澤陸・布施英梨花・畠中海斗・堀籠崇	4. 巻 4
2. 論文標題 第4回額面制す泰キャリアイベント実践報告「Career &Talkキャリアトーク～公務員編～」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 44 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子・柴原真知子・大滝純司	4. 巻 1
2. 論文標題 鼎談：医学部入試と初年次教育を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 85 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 種村文孝・犬塚典子・池田雅則・池田法子・渡邊洋子	4. 巻 2
2. 論文標題 ライフラインチャート活用の到達点と課題ー女性医療専門職のキャリア研究方法として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 131 139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀籠崇・稲垣実優・岡本留奈・山岸陽華・米澤奈菜	4. 巻 2
2. 論文標題 第3回キャリアイベント実施報告ー公務員のリアルを聴こうー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 86 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子・藤本眞一・柴原真知子・大滝純司	4. 巻 69(1-3),
2. 論文標題 医学生のための自己主導型学習 : 医学部入試と初年次教育を架橋するために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Nara Medical Association Journal of Nara Medical Association 奈良医学会	6. 最初と最後の頁 27 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 Vol.3No.4,
2. 論文標題 総論：日本の医療専門職の特徴 医師をめぐる多面的考察からー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『社会保障研究』（国立社会保障・人口問題研究所）	6. 最初と最後の頁 458 - 475
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 渡邊洋子・藤本眞一・柴原真知子・大滝純司
2. 発表標題 「初年次教育としての授業『自己主導型学習』の実践」
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊洋子・犬塚典子・池田法子・種村文孝・池田雅則
2. 発表標題 キャリアヒストリー法の構築 女性医療専門職に焦点を当てて」
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 犬塚典子・池田雅則・種村文孝・池田法子・渡邊洋子
2. 発表標題 職業人生を振り返る/見直す学習 キャリアヒストリー法の課題と可能性」
3. 学会等名 日本社会教育学会
4. 発表年 2018年

## 〔図書〕 計3件

1. 著者名 ピーター・ジャーヴィス(渡邊・他1名監訳)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 496
3. 書名 成人教育・生涯学習ハンドブックー理論と実践	

1. 著者名 石井英真・渡邊洋子編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 教職教養講座 第15巻 教育実習・教職実践演習・フィールドワーク	

1. 著者名 片岡竜太・渡邊洋子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 薬事出版	5. 総ページ数 106
3. 書名 医療者のための質的研究 はじめの一步!! - データで表しきれないデータを読み解く	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

新潟大学学術レポジトリ 創生学部 紀要 創生ジャーナルHuman and Society <a href="https://nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_snippet&amp;index_id=1748&amp;pn=1&amp;count=50&amp;order=17&amp;lang=japanese&amp;page_id=13&amp;block_id=21">https://nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_snippet&amp;index_id=1748&amp;pn=1&amp;count=50&amp;order=17&amp;lang=japanese&amp;page_id=13&amp;block_id=21</a> 新潟大学学術レポジトリ <a href="https://dspace.lib.nii.ac.jp/dspace/handle/10191/50359">dspace.lib.nii.ac.jp/dspace/handle/10191/50359</a>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------